

寄書

土木用語について

正員 工学博士 福田 武雄*

本誌39巻10号に米元卓介氏が「用語への関心」と題して、今回出版の土木工学ハンドブックの幹事として、用語の統一に努力を払われた感想を述べられているが、その中で一寸まちがつて考えられている点があるので、ここにそれをはつきりしておきたい。

それは当用漢字に関して“「洪」が今春当用漢字に拾われたので「コウ水」から救われた……”と書かれている点である。実際、今春、国語審議会で洪、棧などの字を当用漢字として採用するように決定したか

のごとき記事が新聞紙上に出たことはあるが、これは、単に、国語審議会の術語部会においてそのように意見がまとまつただけであつて、この点については国語審議会の最終議決機関である総会ではまだ何等決定されておらず、洪、棧などの字は、現在では依然として当用漢字のワク外であり、また聞くところによると、当分の間、当用漢字が改訂されることはないだろうと思われる。

筆者も現行の当用漢字には不満をもつ一人であるが、以上の点について一般の人がまちがつて考えられているので、この一文を草した次第である。

* 東大生産技術研究所教授

新刊 基礎工学と土質調査

東大教授・工博

土質基礎調査所長

最上 武雄・森

博 共著

A5判 330頁 ¥750.

現場および実験室における土質調査法の概要を解説し、その調査結果を基礎工の設計施工に活用するのに必要な土質力学の理論、公式を提示、信頼度の高い実用的計算例を示す。巻末の全国の主要都市を主とする220余の土質柱状図は関係技術者の貴重な資料である。
〔主要目次〕 第1章 ボーリング及びサンプリング 第2章 現場土質調査 第3章 基礎設計に必要な土性 第4章 基礎設計のための土質力学 第5章 基礎の設計 第6章 主要都市の土性

重カダム

米国内務省開拓局編・近藤泰夫訳

A5判 252頁 ¥650.

本書は米国内務省開拓局が局内用として実用的に編集された指導書の全訳で重カダムの最新資料として関係者に貴重なものである。内容は全体を2篇に分けて、I 施工計画篇では最近の施工方式全般にわたり懇切に解説し、II 応力解析篇では重カ法、試算荷重法について算式を掲げ計算実例の詳細を示しさらに非線型法および実験法の大要を説明している。

土木設計便覧

土木設計便覧編集委員会 B6・1402頁 ¥1600

マスコンクリート

米内務省開拓局編 近藤訳 A5・258頁 ¥550

東京
日本橋

丸善金属重量表

丸善出版部編 三五判 286頁 ¥260

フーバーダムの施工の実際

米内務省開拓局編 近藤訳 A5・260頁 ¥550

丸善